



松尾峠～酒井明 説話集 16※～

整備された四国の道で、松尾峠を越えて伊予の小山に抜ける旧街道。50年昔とは大分様子が変わっていますが、それでもますますということではできません。

大深浦の番所前を通って奥へ進むと小さな池があり、その池の左付けの道をたどると迷うことはないでしょう。

右付けに進むと、草木藪に出ることができますが最近通る人もないでしょう。

松尾峠の道はよく知ってくださっている方が多いと思いますが、山ひとつで土佐と伊予です。この道以外にも、両方の人たちが物々交換の商売などで行き来した道がたくさんありました。

しかしなんといっても松尾越えが本街道ですから、八十八ヶ所参りのお遍路さんはこの道以外は絶対通ってはいけないことになっていたそうです。

そんなことで、今も跡を残している峠の茶屋が繁栄していました。

昭和に入ってから国道56号線が抜けるまでたくさんの方が利用してきました。茶屋で一服して純友城址に向かい、それから西へ進みます。

山頂国境線は木も草もきれいに削り取られた防火帯がずうっと伸びており、その防火帯の北側は広大な牧場で、春先には火入れをして枯草を焼き、若草が萌えたって来るとたくさんの牛がのんびり暮らしておりました。

牧場には、立派な石積みの台の上に東と西に向かい合う、向い地蔵が安全守護を祈って建てられ、今もその姿をとどめています。

山頂から見る宿毛湾、冬のうたせの帆の点在は一幅の絵でしたが、時おり咸陽島や大藤島沖に見慣れぬハエが出てくる。不思議なこともあるものと見てみると、潮を吹き上げてくじらと分かる。ずい分奥まで入ってきておったと古老たちから聞きました。

山頂をたどって篠山をとりまく四国連山の眺めを見るのもまた何とも言えません。晴れよし。雨よし。子供たちの足にもさほどのことはない松尾街道です。山や海の空気をいっぱい吸い込んでみてはいかがでしょうか。

※) 平成26年3月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。